

仙台デザイン専門学校
令和4年度 自己点検・評価 報告書

令和5年5月

学校法人 北杜学園
仙台デザイン専門学校

◆令和4年度 自己点検・評価について

仙台デザイン専門学校は、昭和42年に仙台デザイン専門学院として創立認可後、デザインを通して社会に貢献しうる多くの専門職業人を輩出し、卒業生は多くの分野で活躍しております。

本校では、専修学校としての責務を果たすべく、自己評価・学校関係者評価を実施し、専修学校教育の特徴を活かした学校運営や教育活動の質の向上を図ってまいります。

本校が実践的な職業教育等を目的とした自らの教育活動及びその他の学校運営について、社会のニーズを踏まえ目指すべき目標項目を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みについて評価・公表し、学校としての組織的、継続的な改善を図ってまいります。

令和4年度における学校評価におきましても、適切に公表し、特色のある学校づくりを進めてまいりたいと考えております。

令和5年5月

学校法人 北杜学園

仙台デザイン専門学校

校長・自己評価委員会委員長 鈴木 一樹

《自己点検・評価について》

1. 評価対象期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

2. 実施方法

平成25年3月に文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、校長の指示・監督の下、教務統括を実務リーダーとし、自己評価項目に合わせた自己評価を実施している。

3. 自己評価項目

次の10項目を評価大項目とし、各大項目に関して小項目を設定し評価している。

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 教育理念・目標 | 6. 教育環境 |
| 2. 学校運営 | 7. 学生の受入れ |
| 3. 教育活動 | 8. 財務 |
| 4. 学修成果 | 9. 法令等の遵守 |
| 5. 学生支援 | 10. 社会貢献・地域貢献 |

4. 評価基準

次の4段階評価としている。

適切…4 おおむね適切…3 やや不適切…2 不適切…1

《自己評価項目の取組・改善方策》

1 教育理念・目標	評価
1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2 学校における職業教育の特色を明確にしているか	4
3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
5 学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	4
①取組	<input type="checkbox"/> 本校の教育理念、教育目標や教育方針は明確に定め教育力向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 学校における職業教育の特色に関して、学生および保護者に対し新入生ガイダンス等で学生便覧を配布、説明し、情報公開に努めている。 <input type="checkbox"/> 本校では、デザインをただ単に形を変え表現するのではなく、デザインを通し社会に貢献しうる「デザインする心」を持った有能なる人材育成に努めている。
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 情報公開にて、今後も学校運営等について詳細に告知していく。 <input type="checkbox"/> 学生の就職活動に関する相談を含めて、今後もさらに継続して保護者との連携に努める。

(1) 現状及び課題

①教育目標や教育理念、将来像等は学生便覧に掲載し、新入生ガイダンスにおいて学生にしっかりと伝え、指導している。また、保護者に対しても同資料を配布し、本学の概要について周知に努めている。外部へ

の周知については北杜学園ホームページ上に仙台デザイン専門学校として展開しており、更に本校 SNS 等により学生生活や学修成果、イベントに至るまで幅広く告知を行っている。

②令和元年度よりシラバスのガイドライン作成やシラバスのフォームの刷新を図り、授業計画に活かしている。

2 学校運営		評価
1 目的等に沿った運営方針が策定されているか		4
2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか		4
3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか		4
4 人事、給与に関する制度は整備されているか		4
5 教務・財務等の組織設備など意思決定システムは整備されているか		4
6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか		4
7 教育活動に関する情報公開が適切になされているか		4
8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか		4
①取組	<input type="checkbox"/> 運営方針や事業計画等について、毎年3月に理事会・評議員会で承認を受け、年度予算、資金計画等が確定され業務の遂行がされている。 <input type="checkbox"/> 学校運営に関して年度目標を設定し、教職員が一丸となって目標を達成すべく、業務に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 履修時間の確認や教員資格等の項目において自己点検を毎年度実施しており、コンプライアンスに努めている。	
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 自己点検シートに基づき、不備、不適事項の把握と改善活動の実施と継続を真摯に行う。 <input type="checkbox"/> 常に適正な学校運営がなされているか、法人本部と連携し、その確認と改善を継続して推し進める。	

(2) 現状及び課題

①学園方針に則り年度目標を定め、就職内定率、資格取得率、退学防止等を設定し、教職員が団結、協力して業務に取り組んでいる。また、シラバスや履修時間を確認し、各項目において自己点検を実施しており、コンプライアンスに努めている。

②教育活動に関する情報はHP等で適時公開しているが、令和元年度よりシラバス等の情報公開を行っている。

③具体的な教育内容等については学校案内パンフレット、学校HPを通して関係業界や地域社会及び入学希望者等に向けて最新の情報を発信している。

④学校財務情報、学校自己点検評価、学校関係者評価については文部科学省のガイドライン等に従って、適切に公開している。

3 教育活動		評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか		4
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達		4

レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
3 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはある	4
11 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12 関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4
14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
①取組及び課題	<input type="checkbox"/> デザイン業界等の関連分野との情報交換を含めた連携が若干不足であると考ええる。 <input type="checkbox"/> インターンシップの手法模索と、経験を積ませる環境づくり。
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 各種関連業界との情報交換の機会拡充に努める。（オンラインでも実施可能なシステムの活用） <input type="checkbox"/> 現場が求める人材を把握するため、アンケート等を含めた情報収集方法の検討をしていきたい。

(3) 現状及び課題

- ①教育理念、業界ニーズを踏まえた人材育成の観点から、カリキュラムの見直しを行い、必要に応じて整備している。
- ②授業評価においては学生による授業評価アンケートを毎年実施し、各教員へフィードバックしている。これにより、授業方法や学生対応、授業資料等の改善等に努めることができ、学生の授業満足度の向上につながっている。また、職業に関して外部講師による就職ガイダンス等を実施しているとともに、求人先より就職試験結果のフィードバックを受ける等、企業と連携し学生支援に取り組んでいる。

4 学修成果	評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 資格取得率の向上が図られているか	4
3 退学率の低減が図られているか	2
4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか		4
①取組	<input type="checkbox"/> 世代特性を考慮した学生のモチベーション向上に努める。	
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 退学率低減を意識した学生へのフォローを一層努める。 <input type="checkbox"/> 就職率向上につながる学内外の就職ガイダンスへの積極的な参加を促す。	

(4) 現状及び課題

- ①担任制のため、学生指導、生活指導や面談、相談等にきめ細かく対応できている。保護者との連絡も密に行っており、情報も共有している。
- ②経験者が優遇されるデザイン業界の厳しい採用状況に対応するため、就職活動の実践的なカリキュラムとして、1年次に必修科目「就職指導Ⅰ」で社会人としてのマナー・心構え・自己分析を行い、2年次には選択科目として「就職指導Ⅱ」で履歴書作成・面接指導等企業対応の指導を実施し、就職率向上につなげている。
- ③就職内定者の向上を目指すためには、就職担当者、学生及び担任との連携が不可欠であり、今後も密な連携を行っていく。
- ④退学者の中で高等学校までの不登校や生活習慣、精神的特性に社会・業界とのギャップがあり、退学に至るケースが少なくない。その差をどの程度まで埋め、モチベーションを維持しつづけられるかが退学率低減の鍵となる。また、精神的な問題による不登校や退学のケースが増加傾向にあるため、学生相談室を開設し、専門のカウンセラーによる対応に力を入れている。

5 学生支援		評価
1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか		4
2 学生相談に関する体制は整備されているか		4
3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか		4
4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか		4
5 課外活動に対する支援体制は整備されているか		4
6 学生の生活環境への支援は行われているか		3
7 保護者と適切に連携しているか		4
8 卒業生への支援体制はあるか		4
9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		4
10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか		4
①課題	<input type="checkbox"/> 入学時より精神疾患を抱えた学生が増加傾向にあり、その対応に追われる。	
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 学生相談室に専門のカウンセラーを設置、学生の悩みごとに対する窓口として更に充実を図る。	

(5) 現状及び課題

- ①各担任、教科担当者が学生本人および保護者と連携し、デザイン関連業界で幅広く活躍できる技術の習得に励んでいる。また、定期的に出席状況や各教科における成績を保護者に報告しており、問題があると判断される場合は保護者面談等も実施している。
- ②日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援新制度及び学園独自の奨学金制度や寮・アパートの斡旋

など、学生への経済面・生活面に対する支援を行うとともに、学内に学生相談室を設け、専門のカウンセラーによる学生のさまざまな悩みに対応し、精神的な悩みや不安を抱える学生のケアに努めている。

- ③ 職業理解をはじめガイダンス等への参加や教育環境の開放等を実施、中高校生等へのキャリア教育推進にも努めている。
- ④ 社会の動きや就職活動を取り巻く現状認識が低く、就職活動を先送りする傾向が強い学生のため、効果的な現場の声として、内定者講話・OB講話・企業講話・就職セミナー・就職ガイダンス等を開催し、学生の意識改革に継続的に取り組んでいる。

6 教育環境		評価
1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか		4
2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか		4
3 防災に対する体制は整備されているか		4
① 課題	<input type="checkbox"/> 今後パソコンソフトなど、最新のものへの更新が必要となってくる。	
② 今後の改善方策	<input type="checkbox"/> インターンシップへの積極的参加を促すと同時に、受け入れ先の開拓をしていく。	

(6) 現状及び課題

- ① 職業人を輩出するために、より高度な職業教育、実践教育を目指してパソコンやデザインツールの更なる充実を図る必要がある。ネットワーク環境については各 HR に無線 LAN を配備し利便性の向上に努めている。また、リモートでの説明会及び面接等対応の専用ブースを校舎内 3 カ所に設置し、就職活動に活用している。
- ③ 学校消防計画及び安全計画などの防災に対する体制が整備されている。

7 学生の受入れ募集		評価
1 学生募集活動は、適正に行われているか		4
2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		4
3 学納金は妥当なものとなっているか		4
① 取組	<input type="checkbox"/> 教務と広報スタッフが連携を図り、実施している。 <input type="checkbox"/> 教育成果は学校案内、HP、SNSを通して正確に伝えている。	
② 今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 学生のライフスタイルを鑑みた、マーケティング戦略を行う。 <input type="checkbox"/> 現状において入学者数は増加傾向であり、今後も継続できるよう創意工夫し取り組む。	

(7) 現状及び課題

- ① 学校案内やホームページ、学校説明会、模擬授業、その他進学情報誌等に掲載する情報ならびに説明表現については、真実性、公平性、明瞭性を考慮して公開している。また、資格取得実績や就職、卒業生の活躍等の教育成果についても「個人情報公表に関する同意書」に基づき公開している。
- ② 学納金は、教育内容、学生本人および保護者の負担感を考慮したうえで設定し、募集要項に明記している。

8 財務		評価
1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか		4
2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		4
3 財務について会計監査が適正に行われているか		4
4 財務情報公開の体制整備はできているか		4
①取組	<input type="checkbox"/> 中長期的視野による事業計画を策定・実施し、流動性と安定性を確保した資産運用を行い、さらなる財務基盤の安定を図る。 <input type="checkbox"/> 予算・収支計画は過年度の財務状況に照らして、有効かつ適正に行われている。	
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 財務情報の公開については、学園ホームページにおいて公開している。専修学校ならびに学校法人という公益性を踏まえ、広く社会に説明責任を果たすべく、現状に満足することなく更なる改善を図っていく。	

(8) 現状及び課題

- ①財務に関して、本校は堅調な運営の結果、過去3か年度にわたり、帰属収支差額は黒字で推移しており、安定した財務基盤を有している。また、予算・収支計画は過年度の財務状況に照らして、有効かつ適正に行われている。
- ②会計監査については、監事が、理事会及び評議員会に出席し意見を述べ、また、学校法人の業務及び財産の状況について監査し、毎会計年度後、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会へ提出している。
- ③学園全体として、監事の監査を支援するために、学校法人運営状況の定期報告、公認会計士及び内部監査の担当部署として設置している業務監査室との意見交換、学校法人制度の最新情報の提供などを行っている。

9 法令等の遵守		評価
1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか		4
2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		4
3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		4
4 自己評価結果を公開しているか		4
①課題	<input type="checkbox"/> かねてより自己評価の実施及び、その結果を踏まえて教育活動等の改善を行ってきた。今後は、自己評価の問題点があった場合は速やかに解決していきたい。	
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 今まで以上に地方自治体や企業と連携を図る取り組みを今後も続けていく。	

(9) 現状及び課題

- ①全教職員は学園が掲げるコンプライアンスの意識をもち、各業務にあたっている。また、定期的に自己評価を行い、日々の業務等における問題点がないか確認・改善に努めている。
- ②個人情報保護に関しては、「学校法人北杜学園 個人情報保護規定」に基づき、学園が有する個人情報については、学園プライバシー・ポリシー（個人情報保護方針）に基づく適正な保護の実現を図ってお

り、資格取得実績や就職、在校生・卒業生の活躍等の教育成果等「個人情報公表に関する同意書」による同意を得た上で事実に基づき公開している。

10 社会貢献・地域貢献		評価
1 学校の教育成果を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか（外部コンペ）		4
2 学生の学外活動を奨励、支援しているか		4
①課題	<input type="checkbox"/> 業界特性を生かした職業意識をさらに高めていく。	
②今後の改善方策	<input type="checkbox"/> 地方自治体や企業と連携を図る取り組みを今後も続けていく。	

（10）現状及び課題

- ① 本校は、社会に貢献しうるデザインマインドを持った人材育成を目標としており、日々の鍛錬において習得したデザインスキルをもって、社会貢献・地域貢献を目指し、社会活動や地域活動を推奨している。パブリシティを考慮した課題テーマや、各地方自治体や企業・団体等からの依頼に基づくテーマを取り上げるなど幅広く社会のニーズに対応している。
- ② 企業との連携により、企業主催のデザインコンペの企画に協賛し、授業課題として作品を仕上げ、その作品を出展し実績を上げている。
- ③ 現在、テクノロジーが加速度的に進んでいる中で、学校でデザインを学ぶだけでは不足していると思われる。基本的なデザインの知識は大変重要であるが、それに加え新しいメディアやデバイスなどに即座に対応できるように、常に新しい手法を学び続けることが必要とされる。